第１課　聖霊とみ言葉

【暗唱聖句】

「聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです」第二テモテ3:16、17

【今週のテーマ】

聖霊は、わたしたちを教え、戒め、矯正し、義の訓練をするために働きます。そして神の人として、その働きのために整えられます。とくに聖書を学ぶときは、つまり神の言葉を正しく理解したければ、聖霊の助けが必要です。聖霊によって不思議な悟り、気づきが与えられ、正しい理解へと導かれることでしょう。そして、その理解に基づいた生き方へと導いてくれるでしょう。

【日曜日　聖霊と啓示】

神様が人間にご自分の意志を伝えることを啓示といいます。啓示には様々な方法がありますが、すべては聖霊を通して与えられます。したがって、啓示と聖霊は密接な関連があります。

啓示とは、人間の力では知りえない真理や神秘が、神様によって開示されることです。啓示を意味するギリシア語「アポカリュプシス」apoklypsisは、隠されているものの覆いが取り除かれることを意味しています。そもそも罪のゆえに神様から遠く離れてしまった人間は、神様のことを何も知らずに生まれてきます。だから、神様がそっとベールを取り除いて、ご自身を現してくださることなしに、神様を、そしてそのご意志を知ることはできません。愛の神様は、わたしたちにご自身を伝えたいと思っておられます。だから、聖霊を遣わし、覆われたベールを取り除いてくださいます。だから、わたし達が望みさえすれば、あらゆるところに神様が啓示されているのに気が付くようになります。神ご自身は、自然を通して、聖書を通して、祈りを通して、そして何よりもキリストを通して啓示されています。しかし、どれ一つとっても聖霊の働きなしにそれを正しく知り、悟ることはできません。

「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです」第二ペテロ1:20，21

聖書の預言はみな、聖霊によって動かされた人たちが語った神の言葉であるから、我々はそれに対して私的解釈をしてはならず、また聖霊によって導かれて理解していくものです。神の言葉を語るもの、そして、それを聞き理解するもの共に、聖霊という媒体を通して行われるのです。

【月曜日　聖霊と霊感】

聖書は聖霊によって導かれた人が霊感を受け書かれたものであることが聖書の中に書かれてあります。霊感とは、聖霊によってもたらされた影響力を現す言葉です。

「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです」第二ペテロ1:21

「わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる」申命記18:18

「まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」 神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにはだれも知りません。ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜わったものを、私たちが知るためですこの賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです」第一コリント2:9～13

これらのみ言葉からもわかるように、聖書の言葉はみな聖霊によって導かれて書かれた神の言葉であることがわかります。それゆえ、聖書の言葉は神様から言葉を預かった人すなわち預言者によって書かれたと言えるわけです。しかし、聖書の言葉は機械的に神様の言葉をそのまま書き写したわけではありません。霊感を受けた預言者たちが、自分の言葉でそれを伝え、時には様々な資料を調べて書いている箇所もあります。預言者といえども土の器に過ぎないので不完全に思えるような部分があったとしても、神様の思想はしっかりと伝えられています。

【火曜日　聖霊と聖書の真実性】

聖書は約40人もの人たちによって書かれ、それぞれ内容も文体の特徴も異なりますが、しかしすべて霊感に導かれて書いています。このことは聖書の真実性を擁護するものであり、神の言葉であることを証明するものです。この聖書の言葉は神様から来ているがゆえに、それは真理であり、永遠であり、正しくすべてのことを裁くものです。

「御言葉の頭はまことです。あなたはとこしえに正しく裁かれます」詩篇119:160

「というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです」へブル4:12

そして、この真理のみ言葉によって、わたしたちは聖なる者となることができるのです。

「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」ヨハネ17:17

【水曜日　教師としての聖霊】

初心者はもちろん、長く教会に来ている人でも、聖書が難しく感じることが少なくありません。それは当然のことです。神の言葉、神の知恵を、罪深く限られた知識しかない人間が読むのですから。しかし、聖霊が働くとき、見えなかった真理が見えるようになり、悟ることができなかったことを悟ることができるようになります。

「この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです」第一コリント2:13、14

パウロは霊的な事柄を理解するために、霊的な助けが必要であることを述べています。つまり、聖霊の働きが必要であるということです。聖霊に導かれるとき、霊的な目が開かれて、今まで見えなかったようなことが見え、悟れなかったようなことを悟ることができるようになります。これは体験の世界であって、机上で議論すべきテーマではありません。

聖書を読むにあたって重要なのは、表面的な意味だけではなく、その奥にある霊的な意味を悟ることです。すると、2000年以上も前に書かれた言葉であり、その当時のイスラエルを中心に語られているにも関わらず、今の自分自身に語られている言葉として聞こえてくるのです。そのため希望や喜びがみ言葉を通して溢れてくるのです。逆に聖霊が働かなければ、聖書は単なる過去の出来事、その当時の人々の物語ということで終わっていることでしょう。そして、自分が持っている知識と判断力だけで聖書のみ言葉を理解しようとすると、聖書は矛盾に満ち、意味が分からず、そこから何の力も喜びも見出すことができないことでしょう。

また、聖霊が働くときの特徴として、一つのみ言葉が別のみ言葉を理解する助けとなるのを経験します。それまでばらばらだった聖句が一つにつながっていくのはまさに驚きです。聖書研究の醍醐味は、このように聖霊が働いて、み言葉が語っている真理の中へと入っていくことができることです。

【木曜日　聖霊と御言葉】

聖書のみ言葉はすべて聖霊（霊感）によって導かれて書かれたものですから、この神の言葉に逆らうようことを聖霊が導くことはありません。もし、み言葉を否定する言葉を語ったり、生活態度が聖書から逸脱しているものがあれば、どれほど影響力のあることを語っていたとしても、それは神様の霊によらずに語っているのであり、わたしたちは偽預言者を見分けることが出来ます。また、聖霊が語られたといって聖書とは違うことを言う人がいるかもしれませんが、それは正しくありません。

「聖霊は聖書にとって代わるために与えられたのではないし、、またそのように与えられるはずもない」希望の光P1592 各時代の大争闘上P4

また、わたしたち自身も何が正しいことなのか迷うことがあるかもしれません。そのときは常に聖書に戻り、その中から神様の答えを求めると良いでしょう。